

科目名	教育課題研究 II	担当教員	三田地 真実
科目属性	選択必修	単位数	2単位
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>教育分野における課題に限らず、現代社会における様々な「課題」はいまや個人が一人で取り組んで解決できるようなものではなくなってきています。そこでは常に「異分野」（専門分野の違い、立場の違い、年齢や国といった違いなど多種多様な違いを含めて）の人々が集い語る「場」が必須となってきました。そこでは、お互いの立場や価値観を尊重しつつも、しっかりと自分の意見を相手に伝え、また相手の意見もしっかりと理解した上で次の議論を進めていく「対話」の技術が必須です。しかし、実際の社会で行われている「話し合い」というスタイルは、この対話として成立しているものが多いとは決して言えない状況です。そこで、本授業では、主に「ファシリテーション」という場づくりの技法を学ぶことを通して、人々が集って、①様々な課題を抽出するにはどのようなプロセスがあるのか、②抽出された課題に対する解決策を見出すにはどのようなプロセスがあるのか、③「意味ある場づくり」とはどのようなことなのか、④対話を支えるコミュニケーション、⑤具体的な場づくりの技法について、演習を通して学んでいくことを狙いとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育分野における「課題」を抽出した後、どのようなステークホルダー（関係者）が集えばその問題を解決できるのか、どのような場を設定すれば良いのかの企画立案ができる。</li> <li>2. 実際に企画立案された話し合いの場を効果的に進めるためのプログラムデザインができる。</li> <li>3. 実際の話し合いの場において、異なる立場、異なる意見をきちんと受け止めさらに発展的解決策に向かうようにプロセスをマネジメントすることができる。</li> <li>4. 真の対話を司ることのできる、ファシリテーターとなることができる。</li> </ol>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教育課題の抽出と解決の前提—人が集うということの意味—</li> <li>② 意味ある場づくりについて—ファシリテーションの必要性—</li> <li>③ プロセスを見るということ</li> <li>④ コミュニケーションの基礎（言語・非言語行動）</li> <li>⑤ ファシリテーターとしての心得</li> <li>⑥ 場づくりの技法（1）準備の段階</li> <li>⑦ 場づくりの技法（2）話し合いの本番の段階</li> <li>⑧ 場づくりの技法（3）フォローアップの段階</li> <li>⑨ 効果的な会議にするための行動分析学基礎</li> <li>⑩ 様々な事例についての検討（1）ワークショップの事例</li> <li>⑪ 様々な事例についての検討（2）ワールドカフェの事例</li> <li>⑫ 様々な事例についての検討（3）被災地での実践例</li> <li>⑬ 学生によるワークショップ・プレゼンテーション</li> <li>⑭ 学生によるワークショップ・プレゼンテーション</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>			
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>評価は、レポート 30%、スクーリング 30%、科目修得試験 40%で行う。</p>			

**【教科書】**

三田地真実. (2013). ファシリテーター行動指南書：意味ある場づくりのために, ナカニシヤ出版  
ISBN-10: 4779506697

**【参考図書】**

中野民夫・三田地真実(編著). (2016). ファシリテーションで大学が変わる-アクティブ・ラーニングにいのちを吹き込むには【大学編】, ナカニシヤ出版. ISBN 未定

Justice, T. (2012), *The Facilitator's Fieldbook. (3<sup>rd</sup> Ed.)*, American Management Association: New York. ISBN-10: 0814420087

亀田達也. (1997). 合議の知を求めて～グループの意思決定, 共立出版. ISBN-10: 4320028538

三田地真実. (2007). 特別支援教育連携づくりファシリテーション, 金子書房.

ISBN-10: 4760828257